

「自分流」を育てる、学びの環境 共読ライブラリーの実践から

帝京大学

メディアライブラリーセンター館長
共通教育センター長
法学部 法律学科 教授

木村 友久様



1966年に創立された帝京大学は、「実学・国際性・開放性」を教育指針に掲げ、時代の変化に対応した教育改革を着実に進めておられます。多様な専門分野での教育を展開する一方、「共読ライブラリー」の運営や初年次教育の充実を図るなど、学生の主体的な学びを支援する取り組みにも積極的に取り組まれています。2025年秋にはラーニングコモンズの改修も予定されており、より快適で創造的な学習空間の整備にも注力されています。今回はメディアライブラリーセンター館長であり、共通教育センター長、法学部の教授を務めておられる木村友久様にお話を伺いました。

これからの教育に求められる 「自分流」の実践力

帝京大学の教育理念である「自分流」という言葉は、様々な解釈ができます。日本の大学教育は、明治初期に海外から導入された教育制度に基づいており、専門ごとに学部を設け、それぞれの学部で各分野の専門家を育てるという流れが基本になっています。これは旧帝国大学をはじめとする多くの大学でも受け継がれてきました。しかし、実社会で活躍する人材を育てるためには、そのような専門教育だけでは十分とは言えません。現場では、専門知識に加えて、それをどう応用するかという「実践力」が求められます。私の専門である法律の分野で言えば、法解釈には多様な見解が存在します。理論を学ぶことはもちろん重要ですが、そ

れを実社会でどう生かすかという視点も欠かせません。

例えば著作権に関する裁判では、文字、画像、動画、美術品など、客体によって著作物性の判定が微妙に異なります。結果として、権利範囲の考え方にも影響があります。しかし、大学の教科書では、そうした違いに踏み込まず、「著作物」を一律に捉えて記述しているのが実情です。一方、実際の判決は取り扱う客体や個別事情に基づいて動いているため、現場で起きているさまざまな事実関係が影響します。やはり、現場で働く人材には、理論にプラスして、現場を見て、課題を抽出し、そこに対して今までになかったような新しい提案をする力が必要になってくると思います。もちろん理論は理論として重要ですが、それを現実にもどのように適用するかという「実践力」も求められています。

本学では、創立当初からこうした実践的な視点を重視した教育がなされており、理論と実務のバランスを意識した教育設計が行われています。さまざまな分野で実務経験を持つ教員が多く在籍しているのも特徴です。また、現代は国際情勢も不透明で、流動的な時代を迎えています。そうした中では、現場の状況をしっかりと見つめながら、理論を柔軟に修正し、現実的な解を導き出していく——そのような価値を生み出せる人材が、各分野でどんどん求められるようになると思います。

私は今年、帝京大学に来て6年目を迎えます。それ以前は国立大学に在籍していまし

たので、外部から移ってきた立場ではありますが、その視点から見ても、本学は大学教育の本来あるべき姿を的確に捉え、うまく体現していると感じています。「実学」を実践していく過程では、多様な価値観や考え方を受け入れることが求められます。そして、ただ受け入れるだけではなく、自分なりに解釈し、そこから新たな仕組みを創り出していく。そうした姿勢こそが、これからの教育や研究においてより一層重要になってくると考えています。

全学的な読書推進プロジェクト 「共読ライブラリー」について

※「共読ライブラリー」とは

本を「読み合い・薦め合い・評し合う」をコンセプトに学習基礎力の向上を目指す、全学的な読書推進プロジェクトです。帝京大学では、読書をきっかけに多様な視点に触れ、発表や意見交換といったアクティブな学びへとつなげていく取り組みが進められています。

本学の沖永佳史学長は、自律的に考え、行動し、結果責任を持つという「自分流」を支えるのが読書であるという理念に基づき、全学的なプロジェクトとして「共読ライブラリー」を立ち上げました。読書を通じて、情報編集力、創造力、発信力を獲得することで、長期的な学びの基盤が確立されたと考えたのです。

このプロジェクトは2012年に始まり、今年で14年目を迎えます。当初の課題は、「どうすれば本を読まない学生たちに、最初の1冊を手にとってもらえるか。本に近づいてもらえるか。」という点で、まず取り組んだのが「本棚プロジェクト」です。もともと図書館を利用する学生は、自然と本に触れる機会がありますが、そうではない学生層に本を届けるには、面白い仕掛けや工夫がなければ、一過性の取り組みに終わってしまいます。そこで、松岡正剛さんの編集工学研究所と協力し、黒板を使って本と人とのコミュニケーションを図る仕組みを作ったのです。また、教員や職員が一方的に本を薦めても、なかなか読書推進には繋がりません。同じ学生の目線で、共に活動してくれる学生「共読サポーターズ」を公募しました。初年度18名の学生から始まった「共読サポーターズ」は、毎年、1年生から4年生まで、学部学科もさまざまな学生50名以上が在籍する組織に成長しました。現在では、共読サポーターズとして活動するための研修制度が整い、6つの研修プログラムを学ぶ仕組みができています。当初は職員が主導していた研修も、次第に先輩学生が後輩学生に教える形式へと移行し、今では研修の半数ほどが学生同士によって行われています。こうした体制が整ったことで、活動の継承と継続が可能となり、共読ライブラリーは大学に根づいた取り組みとして発展を続けています。

黒板本棚や側板を活用した「本棚コミュニケーション」について

※「本棚コミュニケーション」とは館内の黒板本棚や側板を活用し、学生が自ら選んだ本を紹介したり、テーマに沿って展示を企画したりすることで、本を介したコミュニケーションを生み出す取り組みです。

たくさんの本が並ぶ中、共読サポーターズは、館内のいたるところで、自分の視点で選んだ1冊を自分の言葉で紹介しています。「おすすめの本を自分のフィルターを通して紹介して、学内に読書を広める活動こそが共読ライブラリーなんだよ」という話を学生たちにはよくしています。こうした本の魅力を伝える活動を、効果的に支えているのが、黒板本棚を中心とした「空間の力」だと考えています。

3階・4階の黒板仕様の本棚側面で1冊の本を紹介する「MONDOストリート」では、一定のルールに基づき展示が行われており、実際にここで紹介されたことで、それまで10年近く貸し出しがなかった本が借りられるケースもあります。展示された本の6〜7割が、展示期間中に一度は貸し出されているというデータも出ています。また、1階の黒板仕様の本棚「MONDOルーム」では、学生たちが自ら展示を企画して、棚づくりを進めています。例えば、「雨」とい

うテーマに対して、ただ「雨」がタイトルに付く本を漠然と並べるのではなく、「雨」というキーワードから多角的な視点で連想しながら、キープックとなる3冊を選書し、最終的には15〜20冊のストーリーのある本棚を完成させます。こうした情報編集の力は、人生のあらゆる場面で、就職後にも活かせるスキルです。本を自分で選び、展示し、リコメンドを自分の言葉や文字で表現するというプロセスが、情報編集の訓練になっています。実際に「就職活動で自分の考えをきちんと話せるようになった」「その点が評価された」と語る学生も多く、共読ライブラリーでの経験が、確かな学びと成長に繋がっていると感じています。



3・4階のMONDOストリート（側板）



「図書館の活用」（初年次授業の様子）

2024年の図書館総合展では「共読ライブラリー」の取り組みを紹介

2024年の図書館総合展では、共読サポーターとして活動している学生たちが主役となり、共読ライブラリーの活動を外部にPRしました。こうした発信の機会は、参加した学生たちにとっても、自身の成長につながる貴重な経験になったと感じています。また、他大学の図書館関係者が共読ライブラリーの活動を見て、刺激を受け「自分たちもやってみよう」と思っていただけのような、良いきっかけになればという思いもあります。当日のフォーラムには、現役の共読サポーターの学生だけでなく、卒業して社会人となった元サポーターたちも登壇しました。現役サポーターと元サポーターが共読ライブラリーの活動を通じて自分がどのようにして成長したかということ語り合っている様子がとても印象的でした。教育的な観点から見ても、非常に意味のある

場であり、大学図書館が生み出す教育的価値を改めて実感する機会となりました。

授業と連携した図書館活用プログラム、初年次授業における教材作成

初年次教育では、必修科目として「ライフデザイン演習Ⅰ・Ⅱ」が設けられており、この授業の中で図書館を活用した学習支援プログラムを実施しています。図書館職員が作成した動画教材などを活用し、教員が授業を行います。教員が出題する問題の答えを館内で見つけながら、図書館の利用方法を体得する「スカベンジャーハント」という実践的なプログラムも用意しています。これまでも図書館と連携した授業は行われてきましたが、今年度は特にプログラムの内容を標準化し、より体系的な教材として整備したため、図書館活用が教育の中にしっかりと組み込まれるようになりました。

2025年秋、ラーニングコモンズがリニューアルオープン

館内のラーニングコモンズ「メディアラウンジ」を学生が集まる知とくつろぎの空間として、この秋、改修します。メディアラウンジは、もともと天井高のあるガラス張りの開放的な空間なのですが、そこに高さ4mのシンボルツリーを設置し、森の中で、コーヒーを飲みながら読書をしたり、仲間

や教員と集っておしゃべりをしたり、パソコンで課題をしたり、とにかくふらっと立ち寄ってもらえる空間づくりを意識しています。学生や若手職員たちの柔軟なアイデアを随所に取り入れているので、自然と人が集まり、気軽に足を運んでももらえる場所となることを期待しています。

また、今回のリニューアルは、単にラーニングコモンズの改修にとどまらず、大学全体の学習環境整備にも直結するプロジェクトとして進めてきました。来年度から全学的にBYODを導入するにあたり、学内ネットワーク環境の高速化や、パソコンの充電設備の増強といったインフラ面の整備も同時に進めています。このプロジェクトは、電子的な資料が増えている時代的背景も踏まえています。昔に比べて現在は、公的機関から公開されている電子資料が増えています。こうした電子資料を学生がより活用しやすくするために、教員が推薦するURLを集約した学内ポータルサイトなどを構想しています。学生が自由にアクセスできる環境を整えるとともに、将来的にはポータル内の資料をデジタルサイネージで自動表示するなどの仕組みも視野に入れています。こちらは中長期的に進めるべきプロジェクトですので、現時点では入口部分ができあがった段階だと捉えています。

一方で、教育系の学会などに参加すると、「デジタル化することで、本当に教育効果が上がるのか」といった意見があがることがあります。私自身も、すべてを電子化するのはリスクがあると感じており、実際に海外ではデジタル教科書の導入を見直す



「図書館総合展」（フォーラムの様子）

動きも見られます。こうした背景もあり、全てを電子化すれば良いという話ではなく、教育学の知見も踏まえつつ、徐々に取り入れるべき部分は取り入れ、そうでない部分は慎重に見極めていく必要があります。例えば、逐条解説のように「必要な箇所をピンポイントで参照する」ような場面では、電子資料は非常に有効です。しかし、体系的な知識を学びたいときには、やはり紙の本でないと頭に残らない、全体が繋がっていかないような感覚があります。おそらく、紙と電子では脳が情報を受け取る場所に違いがあるのではないかと感覚的に感じています。

だからこそ、デジタル化しても良いものと、そうではないものとを適切に見極めていく必要があります。やはり紙の本には紙ならではの価値があり、それは今後も残し

ていくべきだと思います。

オープンアクセス、オープンサイエンスの進展に対して

先ほど、サイネージや情報環境の整備について触れましたが、オープンアクセスの話はまた別の次元の課題だと捉えています。現時点では、オープンアクセス化はまだ始まったばかりの取り組みですので、来年度以降に本格的な対応が求められるようになっていくことになると予想しています。例えば、「論文のオーナーは誰か」という問いについては、著者や共著者の関係性なども含め、昔から数多くの訴訟があるため、ある程度の方向性は決まっています。しかし、「研究データは誰の持ち物か」という問いについては、明確に定まっていません。国として

も明確にはしておらず、「研究データに法律上の明文化された権利はないからオーナーはいない。」という考え方が基本となっています。一方で企業では研究データを「個人のもの」とはみなしません。ここにはギャップが存在しています。

このような背景を踏まえると、大学においてオープン化を進めていく際には、規程や申請書などの文書の中で、データの取り扱いについて明示しておく必要があります。今後は、各大学でも試行錯誤を積み重ねながら、それぞれの実態に即した対応を模索していくことになると思います。特に「データをどう扱うか」が理解されていないと、文書も整備できません。これから数年かけて、多くの大学でも、この課題に直面していくことになるのではないかと考えています。

■ Staff Interview

大事にしているのは「会話」 円滑なやり取りができるよう、日々心がけています



野村 彩華さん
Nomura Ayaka
大阪市内の住宅資材を取り扱う
専門商社で勤務
2025 年～

コミュニケーションを積極的に 取るよう意識しています

現在は、建築に関わる資材の受発注業務を担当しています。住宅建築は、基礎工事から完成まで工程が細かく分かれているため、それぞれの段階で必要な資材の発注依頼があります。毎朝、前日の夜までに届いた依頼データを取り込み、発注書を作成してメーカーへ発注した後、納期の確認や調整を行っています。基本的なやり取りはメールやFAXを使用していますが、イレギュラーな対応や緊急時には、現場監督の方と電話で直接連絡を取り、調整を進めることもあります。業務量は日によって波があり、発注が多い日は午前中がその対応だけで終わってしまうこともあります。そういった忙しい日々を乗り越えるために、私が意識しているのは「会話をすること」です。部署内での連携や情報共有を大切に、積極的にコミュニケーションを取ろう心がけています。

初めての業務でも前向きに挑戦

営業事務の経験はありましたが、「受発注業務」に関しては今回が初めての挑戦でした。もちろん最初は「自分にできるかな」という不安もありましたが、現在所属している部署自体が立ち上がってまだ1年ほどと新しく、「みんなでやり方を固めていこう」という雰囲気があったことが救いでした。

初めてだからこそ、分からないことはそのままにせず、たくさん質問をして理解を深めることを大切にしてきました。不安な部分は何度でも確認し、自信が持てるまで繰り返し取り組むことで、少しずつ落ち着

いて業務に臨めるようになってきました。

分からないことを そのままにしない姿勢

キャリアパワーに登録してから、さまざまな就業先でお世話になってきましたが、どの職場でも共通して大切にしてきたことがあります。それは、「分からないことをそのままにしない」という姿勢です。やみくもに進めるのではなく、分からないことがあればその都度、先輩方にこまめに確認し、自信が持てるまで丁寧に学ぶよう心がけています。ある程度業務に慣れてきた後は、自分の仕事に責任を持ち、途中で他人任せにしないように意識しています。

また、コミュニケーションについても、意識的に取るようにしています。単なる雑談ではなく、毎日出社しているからこそ、挨拶やちょっとした声かけなど、日々のやり取りの中で関係性を築いていくことを大切にしています。特に対面で働いていると、相手の様子がよく見えるため、タイミングを見て質問したり、忙しいときには自分にできる業務を見つけて対応したりと、柔軟に動くことを意識しています。

キャリアパワーの良いところは、営業担当の方々が皆さん丁寧で、親身になってくださる点です。これまで何度かお仕事をご紹介いただく中で、担当の方が変わることもありましたが、どの方も本当に丁寧に対応してくださいました。キャリアパワーを通じていくつかの職場でお世話になっていますが、新たに次の就業先を探す際も、希望に合った提案や応募時の丁寧なサポートがあり、安心してお仕事を続けられています。

キ

キャリアパワーには、求人サイトで見つけた広告がきっかけで登録しました。前職もキャリアパワーでの勤務でしたので、キャリアパワーでの勤務歴は、2025年5月でちょうど丸4年になりました。

現在の仕事に応募した主な理由は、自宅から通勤しやすかったことと、前職で隣の部署の方が受発注業務を担当していた関係で、業務の流れをある程度理解できていたためです。前職と取り扱う商材は異なりますが、事前に業務のイメージができていたことで、不安なく挑戦することができました。また、職場見学で感じた雰囲気の良さも、就業を決めるうえで大きなポイントとなりました。

Vol.XXIX 図書館分類法 (NDC、DDC、NLMC)



書庫では膨大な数の図書を効率的に管理し、また利用者が求める資料を探し出しやすいように、規則に則って書架に並べています。『大辞林』によりますと、分類とは、「ある基準に従って、物事を似たものどうしにまとめて分けること」「物事を徹底的に区分し、種類系列の形をとった体系を形成すること」とあります。図書館では、本の主題や内容に基づいて分類し、その分類ごとに書架に並べています。図書分類法はひとつではありません。日本国内で広く使われている日本十進分類法、世界各国で使用されているデューイ十進分類法、医学分野を専門的に分類する、アメリカ国立医学図書館分類表についてみていきましょう。

【日本十進分類法 (NDC)】

日本の図書館で広く使われている分類法で、日本の公共図書館、大学図書館の90%以上が日本十進分類法を使って図書を並べています。1929年に初版が刊行され、以降時代の変化にあわせてアップデートされ、2014年には新訂10版が刊行されました。まず、本の内容によって「総記」「哲学・宗教」「歴史・地理」「社会科学」「自然科学」「技術」「産業」「芸術」「言語」「文学」の10の分野に分類し、それらに0から9の数字を振って順番に並ぶようにしています。

【デューイ十進分類法 (DDC、DC)】

アメリカの図書館学者、Melvil Deweyが1876年に発表した分類法で、世界各国で使用されており、最新版は第23版です。0から9の数字を使い、「コンピュータサイエンス・情報・総記」「哲学・心理学」「宗教」「社会科学」「言語」「自然科学・数学」「技術」「芸術」「文学・修辞学」「歴史・地理」の10の分野に分類します。

どちらも、0から9の数字を使って分類をするのですが、その数字が表す意味は右図のように違いがあります。

日本では、和書はNDCで分類し、洋書はDDCで分類している図書館もありますので、それぞれの数字が持つ意味は同じではないということを覚えておくといいかもかもしれません。

<主題による一次分類：NDCとDDC>

	NDC	DDC
0	総記	コンピュータサイエンス・情報・総記
1	哲学・宗教	哲学・心理学
2	歴史・地理	宗教
3	社会科学	社会科学
4	自然科学	言語
5	技術	自然科学・数学
6	産業	技術
7	芸術	芸術
8	言語	文学・修辞学
9	文学	歴史・地理

【アメリカ国立医学図書館分類表 (NLMC)】

アメリカ国立医学図書館によって作成された、医学とその関連分野の資料を対象とした分類法です。アメリカ議会図書館分類法をもとに、1951年に米国陸軍医学図書館分類法として発表されました。現在では冊子体での刊行は終了し、電子版へ移行しています。アルファベット1～2字のコードはアメリカ議会図書館分類表で使用されていないアルファベットに限られます。

右図のようなアルファベットのコードと、アラビア数字を組み合わせて分類をしています。詳細は以下のサイトで確認することができます。

<https://classification.nlm.nih.gov/>

<分類一覧（一部抜粋）>

基礎医学		医学および関連主題	
QS	人体解剖学	W	医業
QT	生理学	WA	公衆衛生
QU	生化学	WB	臨床医学
QV	薬理学	WC	伝染病
QW	微生物学・免疫学	WD	全身性疾患、代謝性疾患、環境由来の疾患など
QX	寄生虫学	WE	筋骨格系
QY	臨床病理学	WF	呼吸器系
QZ	病理学	WG	心臓血管系
		WH	血液系・リンパ系
		WI	消化器系

各図書館の蔵書検索システムやCiNiiで本の所在を確認するとき、書誌データを見ることがあるかと思います。データの中にある、「分類：NDC10 974」「分類：DC20 781.8」は「日本十進分類法10版 (NDC10) の分類は974」「デューイ十進分類法20版 (DC20) の分類は781.8」であることを表しています。

ひとつの図書館でもいくつかの分類法を使って、利用者の皆さまが必要な資料を効率的に探し出せるよう、また図書館にとってより多くの資料を効果的に所蔵できるようにしています。

皆さんもよく利用される図書館でこういった分類が使われているのか、確認してみてください。



バックナンバーをご覧ください

キャリアパワーホームページから、Capoのバックナンバーをご覧ください。紙版のバックナンバーもごさい。ご入用の方はお申し付けください。

TEL 075-341-2929 <https://www.careerpower.co.jp/capobn/>



■ Information

第5回 はたらくよろこび作文コンクールを開催します

全国の小学生を対象に、はたらくよろこびについての作文を募集する「はたらくよろこび作文コンクール」。第1回の開催以降、たくさんのご応募をいただいております。今年も開催が決定しました。このコンクールをきっかけにして、子どもたちの心の中に「はたらくよろこびの種」をまいてゆければと考えております。

応募期間 2025. 7/19(土)～ 8/31(日)

審査 京都女子大学 文学部特任教授 中前 正志先生

最優秀賞 20,000 円分図書カード



詳しい応募方法などは
左記 QR コードをご覧ください。

<https://www.careerpower.co.jp/service/wconcours5/>



■ Information

第7回 私の図書館(本)川柳コンテスト 作品募集

今年も「私の図書館(本)」川柳コンテストを開催いたします！読書の楽しさや、図書館を利用できることの便利さや喜びなど、みなさまの「本」や「図書館」にまつわる思いをぜひ川柳にしたため、お送りください。入賞者には素敵なプレゼントもご用意しています。みなさまのご応募をお待ちしております。

応募期間 2025. 7/22(火)～ 9/7(日)

最優秀賞 3万円分図書カード(1名様)



応募方法や規約については
左記 QR コードをご確認ください。

<https://www.careerpower.co.jp/service/senryu2025/>



■ Information

「学びの図書館紀行」で「こども本の森 中之島」をご紹介します

キャリアパワー「学びの図書館紀行」では全国にある話題の図書館/ミュージアム等をご紹介します。今回は大阪府大阪市にある「こども本の森 中之島」を取材させていただきました。こども本の森 中之島は、子どもたちのために設計された「子どもが主人公」の文化施設です。本の表紙を見せる展示や、思わず手に取りたくなるような本棚の配置、館内のいたるところに施されたワクワクするような仕掛けなど、五感を刺激する工夫が随所にちりばめられています。今回の取材では、本と子どもをつなぐための展示方法や空間づくりの工夫について、お話を伺いました。



左記 QR コードから
ご確認ください。

<https://154450.com/contents/manabi>



■ Information

2025年度 図書館総合展に出展します

2025年10月22日～24日に、パシフィコ横浜にてブース出展及びフォーラムを開催いたします。
皆様のご来場をお待ちしております。

フォーラム

2025年10月23日(木) 13:00～14:30

大学におけるマンガ収集の意義と挑戦

登壇予定

京都精華大学 京都国際マンガミュージアム
明治大学 米沢嘉博記念図書館・現代マンガ図書館

会場

パシフィコ横浜(神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1)



図書館総合展キャリアパワーブース
ページおよびフォーラムの詳細は
左記QRコードから、ご確認くださいませ。
<https://www.libraryfair.jp/booth/2025/250>



■ Seminar Information

ご登録者を対象に、オンラインセミナーを定期開催しています

これまでの開催テーマ

EXCEL 講座

ショートカット、置換、COUNTIF
IF、書式設定
条件付き書式、Vlookup
グラフ作成
ピボットテーブル
マクロの基本講座
プルダウンリスト
印刷設定、ブックの保護、パスワードのかけ方
オートフィルタ(並び替えと抽出)
知っているとな便利な関数
(ROUND/MAX/SUMIF など)

WORD 講座

文字入力、書式設定、印刷設定
文章レイアウト(段組み/インデント/箇条書き)
表作成、差し込み印刷

PowerPoint 講座

画面切り替え、アニメーション、スライドショー

いまさら聞けないシリーズ

Zoom(基本操作、アカウント設定)
LINE、Instagram、YouTube
ビジネスマナー、電話応対など

毎

週火曜日と木曜日の週2回、登録スタッフの皆様に向けてオンラインセミナーを開催しております。内容は業務に関連するソフト操作などが中心。ご自身のスキルアップに、お持ちの知識のおさらいに、ぜひご活用ください。開催情報はメールにて随時お知らせ。もちろん参加無料ですのでお気軽にご参加ください。

詳細はメールでお知らせ
参加無料



法令順守委員会

キャリアパワーは、労働者派遣法や労働基準法など各種労働法令を遵守し、常に適正な事業運営を果たすために、社内に法令遵守委員会を設置しています。定期的に派遣先を巡回、また社内監査を行ないながら、派遣契約内容を改めて見直し、法令の遵守が出来ているかの再チェックを行なっています。また、全社員に対して法令知識向上とコンプライアンス遵守の意識強化のために、定期的に研修会や勉強会を実施し、コンプライアンスの課題解決や事前防止の徹底を図っています。遵法精神を貫くことで、当社で働く派遣労働者、そして人材派遣を利用される全ての派遣先企業様に、よりいっそう満足して頂ける様、活動を行なってまいります。

派遣コンプライアンスに関する問い合わせ先

TEL 075-341-2929

MAIL support@careerpower.co.jp

キャリアパワー各支社へは ☎ 0120-154-450 にお気軽にお問い合わせください

東 京 〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-7-2 東京サンケイビル15F
大 阪 〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田 1-12-17 JRE 梅田スクエアビル 2F
名 古 屋 〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅 3-25-9 堀内ビル8F
京 都 〒600-8216 京都府京都市下京区堀小路通烏丸西入東塩小路町 843-2 日本生命京都ヤサカビル4F
滋 賀 〒525-0037 滋賀県草津市西大路町 2-5 N ビル 5F
システムセンター 〒600-8269 京都府京都市下京区七条通堀川西入西八百屋町160

TEL 03-6895-2929 FAX 03-6895-2911
TEL 06-6346-2929 FAX 06-6345-1268
TEL 052-563-2929 FAX 052-563-3511
TEL 075-341-2929 FAX 075-341-3828
TEL 077-516-2929 FAX 077-516-2930
TEL 075-344-6776 FAX 075-344-6780

発 行

株式会社 キャリアパワー

企画 / 制作

株式会社 キャリアクリエイト

2025年8月発行